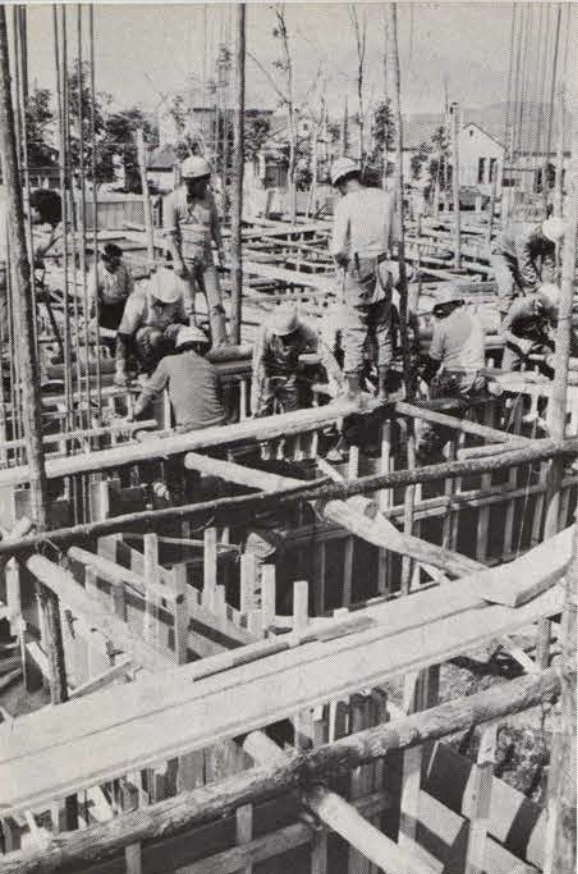


町づくり急ピッチ



港南中学校の建設現場

わたしたちの町《るもい》を明るく、暮らしやすい町にするための、いろいろな工事が、ことしも沖見町でも、元町、駅前、そして港でも急ピッチに進んでいます。

そこで、その工事の主なものをつらねてみると、市の関係では、昨年不慮の災害で焼失した港南中学校の建設工事ははじめ、老朽のため早くから改築が望まれていた元町保育所の建設、そして私たちが待ち望んだ市民センターの建設工事が進められています。

また、ことしも公営住宅の建設、道路舗装工事でも市内各所で始っていますし、市内の中心地では昨年から進められてきた副港埋立土地造成工事、秋には完了の予定です。

この工事が完成すると、市中心部に約46000平方メートルの平地が誕生し市民の広場などが配置されます。

また、道北随一の港湾都市として発展する留萌港は、単に商港としてではなく漁港としての機能整備も備えるため、東岸漁船溜りの工事もことし完成を目指しています。

このほか道路舗装、街並を整える区画整理事業なども進められます。道の関係では道々の改良工事や住宅建設、海岸沿線の災害を防ぐ海岸緑化事業、中幌、樽真布の防災ダム建設も進められています。国の関係では留萌港を守る防波堤の延長工事、国道の補修、河川による災害を防ぐための留萌川切替え工事などが進められています。

その中のいくつかをひろってみました。



△掘込みが進む東岸船溜り



△埋め立てが進む副港工事現場

盆踊りは新しい副港広場で

一昨年から進められてきた副港埋立土地造成事業は、いよいよことしですべての工事が完了します。長い間、市民に悪臭の根原といわれてきた副港も、いよいよ姿を消すわけです。

埋立面積一万四千平方メートルに既存市有地二万六千平方メートルを併せて四万五千平方メートルが造成されます。

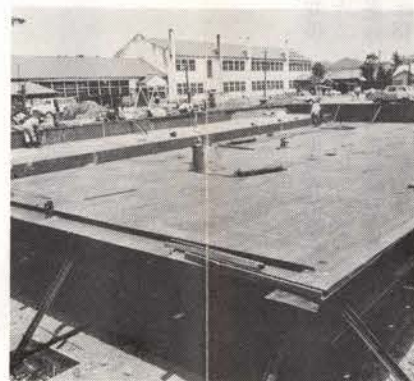
造成後は、遊園地、駐車場、宅地などが区画割りされ、市の中心地として広く利用されますが、ことしの盆踊りは、埋め立てされた新しい広場でできることになるでしょう。

◆東岸船溜りもことし完成

昭和五十五年には、年間五百万トン—これは留萌港における年間取扱貨物量の想定です。

商港として整備されるかたわら漁港としての機能も備えなければなりません。

昨年から進められている同工事も、今は一万七千平方メートルの掘込みの真最中、掘込み後は荷揚げパイス、背後には漁業専用施設が整備されます。



△幌糠小のプール敷設工事

港南中建設は二年計画で

公住ことは56戸を建設

昨年十一月、不慮の火災発生で焼失した市立港南中学校の建設は焼失した部分の工事が始っています。

この校舎は総面積約二千二百平方メートルに鉄筋コンクリート二階建て、二カ年計画で建設されます。

まず、ことしの、第一期工事ではこのうちの千九百四十五平方メートルを建設するもので、普通教室六室、校長室、職員室、家庭科教室、図書室、美術室などが建設されます。

また、明年予定の第二期工事でも普通教室四室の建設も予定されています。

(校舎見取り図は左の平面図を参照にしてください。)

一人一室を目指し公営住宅の建設は、ことしも市内各所で進められます。

◇一種平屋—沖見町四丁目八戸
◇福祉住宅—沖見町四丁目八戸
◇道営一種二階建て—沖見町六丁目
へ四十戸を建設
(申し込み等詳しくは完成次第広報るもい紙出でお知らせいたします。)

■文化と教養の殿堂 見晴公園の中に建設が進められてづくりも急ピッチ

いる《市民センター》は、ことしはスポーツセンターと中央公民館、教育総合センターの建設が進められています。

スポーツセンターは2676平方メートルに、縦横38メートルという正方形で、バスケットコートが2面もとれます。

また、公民館は、1497平方メートルに、郷土資料室や研修室などが配置、教育総合センターは1015平方メートルに研修室や視聴覚教育の施設が整えられます。

■元町保育所 老朽が激しく、早くから改築が望まれていた元町保育所が建設されます。総面積401平方メートルの平屋ブロック建、80人収容で保育室3室、100平方メートルの遊戯室、幼児室などが配置されます。

また、屋外遊戯場264平方メートルも造成され、秋ごろに子供たちの遊ぶ姿が見られるでしょう。

また、屋外遊戯場264平方メートルも造成され、秋ごろに子供たちの遊ぶ姿が見られるでしょう。

